

承認番号	(60AM)4286
薬価収載	1955年9月
販売開始	1955年9月
再評価結果	1986年12月

緩下剤
日本薬局方
硫酸マグネシウム

硫酸マグネシウム「東海」

貯法： 密閉容器・室温保存
使用期限： 3年（表示の使用期限を参照すること）

【組成・性状】

1. 組成

本品は1g中日本薬局方硫酸マグネシウム水和物1gを含む。

2. 性状

本品は無色又は白色の結晶である。
本品は味は苦く、清涼味及び塩味がある。

【効能・効果】

便秘症

【用法・用量】

便秘症には、硫酸マグネシウム水和物として1回5～15gを多量の水とともに経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 腎障害のある患者
[血中マグネシウム濃度が上昇するおそれがある。]
- 高マグネシウム血症の患者
- 腸内寄生虫疾患のある小児
[腸管よりマグネシウムが吸収されやすく、中毒を起こすおそれがある。]
- 心疾患のある患者
[マグネシウムは心機能を抑制する作用がある。]

2. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ニューキノロン系 抗菌剤 ・シプロフロキサシン ・ノフロキサシン ・トスフロキサシン テトラサイクリン系 抗生物質 ・ミノサイクリン ・ドキシサイクリン ・テトラサイクリン 等 エチドロン酸二 ナトリウム	これらの薬剤の効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をできるだけあけるなど注意すること。	マグネシウムがこれらの薬剤と難溶性のキレートを形成し、これらの薬剤の吸収を阻害すると考えられる。
ペニシラミン		同時投与した場合、吸収率が低下するとの報告がある。
セフジニル		機序不明
塩酸リトドリン	CPK 上昇があらわれることがある。	

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

重大な副作用

マグネシウム中毒

多量投与により、まれに（0.1%未満）中毒を起こし、熱感、血圧降下、中枢神経抑制、呼吸麻痺等の症状があらわれることがある。

解毒にはカルシウム剤を静注する。

4. 高齢者への投与

高マグネシウム血症があらわれやすいので、用量に留意すること。

[高齢者では腎機能が低下していることが多い。]

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[マグネシウムイオンは容易に胎盤を通過するため、まれに（0.1%未満）新生児に高マグネシウム血症を起こすことがある。]

6. 小児等への投与

[慎重投与]の項参照。腸管粘膜に異常があつて、異常吸収を起こすことがある。

【薬効薬理】

本剤は難吸収性塩で代表的な塩類下剤である。本剤を内服することにより、腸内水分及び分泌液の吸収を妨げ、腸管内に水分が貯留し、そのため腸壁が刺激され蠕動運動が進んで瀉下を招く。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：硫酸マグネシウム水和物

(Magnesium Sulfate Hydrate)

分子式： $MgSO_4 \cdot 7H_2O$

分子量：246.47

含量：本品を強熱したものは定量するとき、硫酸マグネシウム ($MgSO_4$) 99.0%以上を含む。

性状：本品は無色又は白色の結晶で、味は苦く、清涼味及び塩味がある。

本品は水に極めて溶けやすく、エタノール（95）

にほとんど溶けない。

本品は希塩酸に溶ける。

【包装】500g

【主要文献】

日本薬局方解説書（廣川書店）

【文献請求先】

〒454-0954 名古屋市中川区江松一丁目105

東海製薬株式会社 情報室 TEL 052-302-8501